

陸軍主計大佐 三浦 信

補第三十八師團經理部長

第三十八師團軍醫部長
陸軍軍醫大佐 北伊勢芳士

補南方燃料本部軍醫部長

齊々哈爾 三月六日

(附近)

移 駐 齊作命甲第一五〇號ニ依リ師團ハ齊々哈爾ニ移

駐ヲ命セラル

崇シ新瓦斯防變教範ノ主旨ヲ普及徹底シ

對化指揮技能ヲ向上ス

昭和十三年三月六日

國境視察 三月十三日—十八日

師團長三八吉祥屯附近國境視察並ニ守備

隊巡視ヲ實施ス

第次移 三月十九日—二十五日

駐實施 步兵第三十六聯隊長ヲ指揮官トスル第次移 駐

部隊左ノ如シ

步兵第三十六聯隊 (齊々哈爾)

騎兵第二十八聯隊 (富拉爾基)

山砲兵第二十八聯隊 (齊々哈爾)

工兵第二十八聯隊 (訂)

輜重兵第二十八聯隊 (訂)

陸軍主計大佐 三浦 信一
補第三十八師團經理部長

第三十八師團軍醫部長
陸軍軍醫大佐 川北 伊勢力士
補南方燃料本部軍醫部長

化學戰 三月九日—十日

教 育 關 總 參 教 第一五九七號ニ依リ隷下各兵大隊長ニ

對シ新瓦斯防護教範ノ主旨ヲ普及徹底シ
對化學指揮技能ヲ向上ス

國境視察 三月十三日—十八日

師團長ニハ古祥屯附近國境視察並ニ守備
隊巡視ヲ實施ス

常盤隊 三月二十日

復・歸 第五軍指揮下ニアリ各常盤隊ハ師團移駐
ニ為 隷下ニ復歸セシメラル

御真影 三月二十三日

勅諭 第三十八步兵團司令部奉 敷ニ係ル 御貞影

内地奉遷 勅諭ヲ關總副第二八八號ニ依リ 東京ニ奉遷ス

第二次移 四月五日

駐實施 第二次移 駐部隊左ノ如シ

師團通信隊

齊々哈爾

制毒隊

兵器勤務隊

病馬廠

防護給水部

第三次移 四月十五日—二十五日

陸軍

駐實施 步兵第三聯隊長ヲ指揮官トスル第三次移 駐

部隊タル 步兵第三聯隊主力、步兵第三十六聯隊一

部ハ納金ニ前進シ第四軍司令部ノ指揮下ニ

入ラシメラル

第四次移 四月二十日

駐實施 兵團ハ王カラ以テ第四次移駐ヲ實施ス

移駐部隊左ノ如シ

第三十師團司令部(齊多哈爾)
 騎兵第二十聯隊
 山砲兵第二十八聯隊
 工兵第二十八聯隊
 警備兵第二十八聯隊

師團長 六月四日

申告師團長ニ師團主力移駐ヲ完了セルニ付

幕僚ヲ帶同第三方面軍司令官ニ申告ス

第五次移 六月十三日

陸軍

駐實施 歩兵第三十聯隊第五次移駐部隊トシテ嫩

江ニ前進ス

部隊 六月十四日

編成 歩兵第三〇聯隊 第一七八聯隊

擔任 工兵第二〇聯隊 工兵第一〇七聯隊

警備兵第三〇聯隊 警備兵第一〇七聯隊

第三十師團所發給水部 第三〇七師團所發給水部

右ノ通り編成担任ヲ命ゼラル

師團長六月十八日十九日

檢閲實施師團長二十八日十九日兩日二百リ步兵第三聯

隊ノ檢閲ヲ實施ス

臨時編六月二十六日

大陸命第一五三七号ニ依リ
大陸命第一〇五七号ノ誤リニ
あり 予前 伊達總督官

成下令大陸命第一三三七號ニ依リ師團ハ臨時編成ヲ下

合セシレ第三方面軍^{ヨリ}ノ編組ヲ解カレ大本營直

陸軍省

陸軍

轄トナル

ニ入ラシメラル

獨射 六月二十八日

砲縮合 齊作命甲第二四號ニ依リ左記部隊師團ノ

隷下ニ入ラシメラル

獨立TA 第二十五中隊

同 第二十六中隊

師團戰時 六月三十日

陸軍

訓 示 七月三日

關東軍司令官及第三方面軍司令官ヨリ左記訓
示 受領ス

左記

關東軍司令官訓示

今ヤ大東亞戦争ハ決戦ノ段階ニ到達シ戦況真ニ凍
冷苛烈ヲ極メ皇國隆替ノ懸頭ニ立ツノ秋 滿洲ニ
育成鍛錬シテ確固タル團結ヲ有スル第二十八師團
ハ全軍ヨリ簡拔セラレテ近フ征途ニ就カントス
正ニ兵團ノ榮譽言ハ武人ノ本懐ト謂フベク兵團眞
價發揮ノ好機ハ實ニ今日ニ在リ 翻ツテ觀ルニ兵
團ノ赴カニスル戦場ハ氣候風土著シク其ノ趣ヲ
異ニシ熾烈ナル反攻ヲ企圖スル敵ニ對シ寡劣ヲ
之ヲ擊碎スベキ重任ニ當ルモノト豫想セラル

陸軍

宜シノ豫想ニ戰場ノ實相ニ深ク想ヒテ致シ愈々鐵
石ノ團結ヲ鞏固ニシ敵軍ノ素質戰法又過去ノ戰
訓等ヲ究メテ教育訓練ノ周到ヲ期シ又保健其ノ
他ノ諸準備ヲ萬全ナラシメ以テ出戰ノ目的ヲ完
遂シ生レナガラニシテ在滿完勝兵團タルノ實ヲ
顯揚發揮スヘシ
諒ルルニ方リ將兵一同ノ武運益々隆昌ナランコト
ヲ祈ル

昭和十九年七月三日

關東軍總司令官 梅津 美治 題

第三方面軍司令官訓示

隸下中堅兵團トシテ北邊鎮戢ニ儼タル精強ヲ示
シ正ニ今後ノ活躍ヲ期待セシ第七八六部隊近ク
和戰ノ第一線ニ奮力進セントス

陸軍

兵團ノ榮譽 武人ノ本懐 柯エカニ加ヘシ全關
東軍ノ厚望亦一身ニ鍾ル壯ヌナル哉

茲ニ四項ヲ厚望シテ餞トナシ其ノ行ヲ壯シナラ
シメントス

一 勇猛果敢任務ニ邁進シ必勝ヲ期スヘシ

二 速カニ戰場ノ様相ヲ把握シテ之ニ即スル訓

練ノ精到ヲ期スヘシ

三 瘡ヲ癒百難ヲ克服シ戦力發揮ニ遺憾ナカ

ラシムヘシ

四 駐屯地出發ヨリ常ニ敵地ニ在ルノ觀念ニ徹

シ不覺アルヘカラス

聖戰日ニ凍槍苛烈ヲ加ヘ正ニ皇國ノ運命ヲ

決セントス

兵團ノ任極メテ重シ

切ニ健闘ヲ望ム

終リニサレシ北邊鎮護ノ勞ヲ多クシ深甚ノ謝
意ヲ表シ武運ノ彌榮ヲ禱ル

昭和十九年七月三日

第十三師團長

第三方面軍司令官 岡部世三郎

序列加入 大陸命第一〇四三號ニ依リ師團ハ第三十二軍

ノ戦闘序列ニ編入セシメラル

師團長 七月三日

申告 一師團長ニ關東軍司令部ニ出頭シ關東軍司

令官ニ申告ス

堀江副官隨行ス

參謀長 一福地參謀長 沖繩縣宮古島ニ先行ス

陸軍

出發 隨行官 小坂少尉 外村少尉

御眞影 七月七日

奉遷 關總副第二八〇號ニ依リ歩兵第三聯隊第三十

聯隊第三十六聯隊奉戴ニ係ル御眞影勅諭ヲ

昂々溪 獨ニ準備隊及都奉遷ス

師團長 師團長行動次ノ如シ

行動 七月九日 齊々略爾出發

陸軍

七月十日 奉天ニ泊

七月十日 飛行機ヲ奉天ヲ出發

同日 釜山到着

七月十日-七月十六日 釜山滞在

七月十六日 朝連絡船ヨリ釜山出帆

夕刻博多上陸

七月十六日-十七日 福岡ニ泊

下等
上等
中等
又ハ
又ハ

七月十日

飛行機ヲ那霸着軍司

司令部ニ連絡ニ泊

七月二十日

宮古島ニ到着 戦闘司令部ヲ

開設ス

釜山集結 七月十五日

師團ハ釜山ニ集結ヲ完了ス

師團二部 七月十八日

陸軍

兵力不足 師團ハ關總參電第七九〇ニ依リ一師兵力ヲ

齊々哈爾ニ還送セシメラル

籌僚 七月二十日

轉出 第二十八師團副官 陸軍大尉 官澤春正

琿春新設師團司令部附ニ充用セララル

指揮下 七月二十日

部隊 左記部隊師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

獨立混成第四十五旅團

獨立連射砲第五大隊
戰車第二十七聯隊第三中隊
野戰重砲兵第一聯隊第一大隊
重砲兵第八聯隊
特設整備第二〇九中隊
特設整備第二一〇中隊
特設整備第二二六中隊
特設整備第二二七中隊
第六十九飛行場大隊
第三〇五飛行場大隊
第一二八野戰飛行場設定隊
第一二九野戰飛行場設定隊
第二獨立整備隊
要塞建築勤務第八中隊

船子陸軍病院

陸軍

主力釜	七月二十一日
山出帆	主力部隊ハ輸送船ニ分乘シ釜山ヲ出帆ス
幕僚	八月一日
進級	陸軍大佐 福地春男
	任陸軍少將
	陸軍少佐 濱 久
	任陸軍中佐
給與改正	八月一日

陸亞密第九三五號ニ依リ南西諸島方面ニ對シ
進戰地増俸ヲ加給セラル

指揮下
八月七日

部隊左記部隊師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

- 獨立自動車第二四中隊
- 陸上勤務第一〇九中隊
- 水上勤務第一〇一中隊
- 電信第二十七聯隊ノ五中隊
- 宮古陸軍病院

師團主
八月十二日

陸軍

力到着 師團主力船團ハ長期ノ航海ヲ終リ十二時宮古

島ニ到着上陸ス

參謀長
八月十五日

會同 參謀長ニハ臺北ニ於ケル參謀長會同出席ノ

爲出張ス

轉入 長 關東防衛軍軍醫部員陸軍中佐脇田 豊

補第二十師團軍醫部長
集結完了 故障ノ爲鹿兒島近海ヨリ鹿兒島ニ廻航セル一部



陸亞密第九三五號ニ依リ南西諸島方面ニ對シ
進戰地増俸ヲ加給セラル

指揮下 八月七日

部隊左記部隊師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

獨立自動車第二四中隊

陸上勤務第一〇九中隊

水上勤務第一〇一〇中隊

電信第二十七聯隊ノ五中隊

宮古陸軍病院

師團主 八月十二日

力到着 師團主力船團ハ長期ノ航海ヲ終リ十二時宮古

島ニ到着上陸ス

參謀長 八月十五日

會 同 參謀長ニハ臺北ニ於ケル參謀長會同出席ノ

爲出張ス

師團官島 八月二十三日

集結完了 故障ノ爲鹿兒島近海ヨリ鹿兒島ニ廻航セル部

兵力宮古島ニ到着シ師團宮古島集結ヲ完了ス

指揮 八月二十五日

轉移 第二〇五飛行場大隊師團長ノ指揮ヲ脱ス

兵團長 八月二十九日

會同 參謀長ニ那霸軍司令部ニ於ケル兵團長會同參

加ノ爲師團長代理トシテ出席ス

指揮下 八月三十日

昭和十一年九月

陸軍

部隊 第三十九航空地區司令官師團長ノ指揮下ニ入ラ

ニメラル

防衛圖上 九月二日三日

研究實施 九月上旬ニ於ケル作戰準備進捗状態ヲ基礎トス

ル戰鬥指導要領ヲ普及徹底セシメ特ニ部隊ノ訓

練及築城施設ヲ改善スル目的ヲ以テ宮古島陸海

軍將校集會所ニ於テ參謀長統裁ノ下ニ防衛圖

上研究ヲ實施ス

飛行場九月七日

設定師團ハ戰局ノ推移ニ伴ヒ王カヲ擧ゲテ中飛行場

設定作業ニ着手ス

指揮下區九月十日

處下部隊 左記部隊師團長ノ指揮下及區處下ニ入ラシメラル

獨立混成第五十九旅團

獨立混成第六十旅團

陸軍

陸軍

獨立機關銃第十六大隊

獨立機關銃第十九大隊(不欠)

第四港灣設定隊 中 指揮下

第一築城隊

第二築城隊

作井第八中隊

作井第十六中隊

第一四五獨立整備隊

區處下

防疫給水 九月十日

師團防疫給水部長陸軍軍醫少佐石塚政夫賜

チブスニテ折去ス

指 揮	九月十四日
轉 移	第三十九航空地區司令官、師團長、指揮ヲ脱シ 第八飛行師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル
幕 僚	九月十五日
進 級	陸軍中尉 堀江道德
任 陸軍大尉	
軍司令官	九月十七日
來 島	第三十二軍司令官牛島閣下ニ入古島ノ初度

昭和十四年九月十四日

陸 軍

巡 視	巡視ヲ實施セラル
指 揮	下 九月二十六日
部 隊	中繩方面根據地隊所屬平射砲臺、師團長指 揮ニ入ラシメラル
師團長	九月二十九日、三十日
巡 視	師團長ニ石垣地區ノ初度巡視ヲ實施ス
隨行官	陸路參謀 堀江副官 經理部長 軍醫部長

經理局長 十月一日

來島 經理局長 栗橋中將來島視察セラル

飛行場 十月五日

完成 師團主力ヲ學ケテ作業中ナリシ中飛行場完成ス

兵棋演 十月八日

習略觀 師團長ニ十月十日十一日那霸軍司令部ニ於テ實

施セラル兵棋演習陪觀、爲出張ス

十月十日

陸軍

隨行官、堀江副官

敵機 十月十日

來襲 米第五十八機動部隊近接、報ニ南西諸島全地區

ニ昨日來警、戒警報發令セラレ至嚴ナル警戒實施中

敵機	十月十三日	走ス 我方ノ損害極メテ輕微ナリ	主トシテ船舶ニ對シ銃爆撃ヲ行ヒ十三時四十五分遁走ス	十三時十分再ビ敵機十六機ハ第一次ト同様侵入シ	シ船舶ニ對シ銃爆撃ヲ爲シ八時二十分遁走ス	ヨ宮古島ニ侵入シ陸海軍飛行場及正良港ニ在リ	處七時四十分敵艦上戦闘機八機ハ伊良部島上空
----	-------	-----------------	---------------------------	------------------------	----------------------	-----------------------	-----------------------

陸軍

來襲

臺灣東方海面ノ敵機動部隊ハ臺灣ヲ空襲ニツアル
 現況ニ鑑ミ至嚴ナル警戒ヲ實施中ノ處十五時四十分敵
 艦上機十數機伊良部島方向ヨリ侵入シ飛行場及
 正良港ニ對シ銃爆撃ヲ爲ス

部隊編

十月十五日

成編合球防召電第六一六號ニ基キ特設敵警備工
 兵隊第五〇五、五〇六中隊ヲ編成シ師團營
 下ニ入ラシメラル

待從武官 十月十六日

御來島 待從武官 坪島中將ヲ御差遣遊バサレ師團長ヨリ

狀況御聴取、上陣地ニ一部及陸軍中飛行場ヲ御

視察セラル師團長ニ御目錄ノ品ヲ將兵ニ御浦御着

ヲ下賜セラル

參謀長

出張

參謀長ニ石垣島宮崎部隊ニ於テ實施セラルル

陸軍

兵棋演習實視ノ為出張ス

指揮下 十月二十一日

部隊 第四遊撃隊第四中隊ハ師團長ノ指揮下ニシテ

防衛圖上 十月二十一日、二十二日

研究實施 石垣島防禦戰鬥細部、要領ヲ各大中隊ニ徹底

セシムル目的ヲ以テ石垣地區隊本部ニ於テ石垣地區

隊長宮崎少將統裁下ニ石垣地區防衛圖上研

陸軍

究ヲ實施ス

指揮 十月二十二日

轉移 集團防衛地域内ニ於ケル航空路司令官及陸軍

中央氣象部長ノ隷下指揮下部隊ヲ師團長ノ

區處下ニ入ラシメラル

防瘧班 十月二十六日

編成 マリリヤ、デング熱ヲ予防シ人的戦力ノ增強ヲ圖ル

陸軍

爲防瘧班編成ス

幕僚 十月三十日

轉入 歩兵第三十師團大隊長陸軍少佐 清野秀智

補第二十八師團副官

御眞影 十月二日

奉還 豊作命丙第四十二號ニ基キ十三時三十分ヨリ宮古

郡内諸學校南靜園奉戴ニ係ル御眞影ヲ野原岳

洞窟奉安所ニ奉遷シ奉ル

陸軍

指揮 十一月二日

警 移 第三獨立整備隊、師團長、指揮下ヨ脱シ第

八飛行師團長、指揮下ニ入ラシメラル

指揮下 十一月四日

部隊 左記部隊師團長、指揮下ニ入ラシメラル

海軍迫撃砲隊
部隊編成ナキ迫撃砲

指揮下 十一月十四日

昭和十四年九月九日

陸軍

部隊 左記部隊師團長、指揮下ニ入ラシメラル

船舶工兵第二十三聯隊第一中隊

第三十港灣設定隊

第三十連絡艇隊

防衛圖上 十一月十五日、十六日

研究實施 大中隊長ニ防禦戰鬥細部、要領ヲ徹底セシムル目

的ヲ以テ中地區隊本部ニ於テ中地區隊長安藤少

將統裁ノ下ニ北中地區隊、防衛圖上研究ヲ實施ス

指揮下十一月十九日

部隊

左記部隊師團長指揮下ニハラシメラル

第二獨立警戒隊

第三獨立警戒隊附屬無線通信隊

團隊長

十一月二十二日

更迭

輜重兵第二十八聯隊長陸軍大佐横山伊三郎

補輜重兵學校長

輜重兵第二十八聯隊長陸軍少佐宮川正

補輜重兵第二十八聯隊長

傷害致

十一月二十六日

陸軍

死事件

師團防疫給水部長石村大為ハ部下下士官ト共ニ

會食シ飲酒酩酊ノ上十七時三十分頃自己軍刀ヲ

以テ技術曹長一主計軍曹一當番兵一及軍屬一

ニテ傷害致死セシメラル

二傷一死
加(4)

部長

十一月二十八日

轉出

第二十八師團獸醫部長陸軍獸醫中佐走尾一三

補馬政局事務官

兵務局御用掛命ス

陸軍省	陸軍部	陸軍大臣	陸軍少将	陸軍中佐	陸軍少佐	陸軍中尉	陸軍少尉	陸軍中士	陸軍少士	陸軍中卒	陸軍少卒

師長 十二月四日

更迭 第三師團防疫給水部長 陸軍軍醫大尉石村信夫

補第三十二軍司令部附

陸軍軍醫行政本部附
兼陸軍軍醫學校附
陸軍軍醫少佐大科達夫

補第三十八師團防疫給水部長

師團長 十二月十一日

巡視 師團長ニハ宮崎部隊教育及陣地

視察ヲ實施ス

五加

指撥 十二月四日

部隊 左記部隊師團長ノ指撥下ニ入ラシメラル
大本營陸軍部特務隊第三乃至第五特務班

指撥下 十二月八日

部隊 左記部隊師團長ノ指撥下ニ入ラシメラル
第五野戰航空修理廠
第二獨立整備隊

師團長 十二月十一日

巡視 師團長ニハ宮崎部隊教育及陣地
視察ノ實況ス

隨行官 杉本參謀 堀江副官

昭和十六年四月

指揮下 十二月十一日

部隊 球作命田第八六號ニ據リ獨立機關銃第十九大隊第一中隊師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

圖上 十二月二十日 ———— 十二月二十三日

研究 集團運用並各團隊以下ノ戰鬥指揮ヲ演

練シ様ニテ防衛計畫特ニ築城並部隊訓練

ノ改善資料ヲ得ル目的ヲ以テ兵團直轄

各部隊長司令部ニ會同シ師團長

總裁ノ下ニ兵棋對抗演習ヲ實施ス

指揮下 十二月二十八日

部隊 石垣ニ展開スヘキ電波警戒隊ノ同島到

著ト共ニ師團長ノ指揮下ニ入ラシメラル



敵機一月九日

來襲敵日來ヨリ小敵機ノ敵機來襲セルニ依リ至

嚴ナル警戒ヲ實施中ノ所ハ時四十八分敵艦載

機九機ヲ以テ宮古島東南ヨリ侵入シ陸海

軍飛行場ヲ約二十分間銃爆撃ノ後西南

方ニ脱去ス

師團長一月十二日左ノ通り發令セララル

昭和十六年

更迭 第二十八師團長 陸軍中將 檜淵鎭一

補第三十四軍司令官

臺灣憲兵隊司令官 陸軍中將 納見敏郎

補第二十八師團長

離任式伺候 一月十五日

式舉行 檜淵部隊長ニ對スル離任式伺候式ヲ實施ス

舊部隊長 一月十六日

出發 檜淵部隊長ハ九時軍用機ニ依リ那霸

ニ向ヒ中飛行場ヲ出發ス 堀江副官隨行ス

團隊長以上中飛行場ニ於テ見送リス

師團長 納見部隊長十三時三十分軍用機ニ

着任 依リ軍官民出迎裡ニ來著 着任ス

師團長告 師團長ハ第三十二軍司令部ニ出頭シ軍司

令官ニ申告ス 清野副官隨行ス

新舊部隊長一月十七日

事務引継 新舊部隊長 沖繩 ホテルニ於テ事務引継

ヲ實施ス

師團長 軍司令官ニ由吉ノ為那覇ニ出張中ノ師

歸 隊 團長ハ清野副官ヲ帶同十二時歸隊ス

部隊長著納見部隊長ニ對スル著任行事左ノ如ク實施ス

任行事

至自 一四〇〇 伺候式
至自 一五〇〇 訓示

一月十八日

參謀長狀況報告

司令官部廳舎巡視

野原岳戰鬥司令所巡視

指揮下

師團長 部隊長ハ左記ノ如ク隷下部隊ノ初度

初度巡視 巡視ヲ實施ス

一月三十日

南地區隊
歩兵第三聯隊
獨立機關銃第十八大隊
獨立速射砲第三十中隊